

I 感謝の実践。

1. 「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くして下さったことを何一つ忘れるな。」: 2。

①自分に語り掛ける。何を? 深い御言葉。

②主の良くして下さった事、恵みを「何一つ忘れるな」。私達の弱点を見抜かれた御言葉。私達は、人のした悪は忘れず、主の恵み（人がしてくれた良い事）は忘れ易い。不平不満は、自然に出て来るが、感謝は、意識して、主の恵みを数える事が大切。ノートやディポジションノート等に記す事は、大きな恵み!

※実践からの恵みの証し。

※神から離れる事を決めた方の回復の証し。何度も。

※今も主の恵みを思い出し、数え、記し感謝したい。

この集会の後も、主の恵みを数え、書き加える。あふれる恵みに気付かされる。

③103:3からの主の恵みで、最初に記されているものは、何?ここに深い意味が!

「主はあなたのすべての咎（罪）を赦し」から生まれるもの=素晴らしい神との関係の回復。

神と親しく交われる事自体が最高の奇蹟的な恵み! 神との良い関係の霊的パイプからすべての恵みが与えられる!

2. 感謝の敵と対処の御言葉。

①人と比べ、自分に与えられていないものを数え、ねたむ→対処: 自分にないものではなく、神から与えられているものを数え、感謝し、それらを神が望まれる事の為に喜んで用いて行きたい。

「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもの（神から与えられているもの）で満足（感謝）しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』ヘブル13:5

②実は、私達は、すべての数えきれないほどの多くのものを神からいただいているが、それらを「当然、当たり前」の心で捉え、感謝の心がなくなってしまう→対処: 「あなたには、何か、もらったものでないものがあるのですか」I コリント4:7。私達は、裸で生まれてきた。命も、体、手、足、口、耳、家族の支えも、今与えられている物質的な物、霊的な豊かな恵み、罪の赦し、永遠の命、すべては神が恵んで下さったもの。当然、当たり前、態度を本日、悔い改めたい。神は、その真実な悔い改めを喜ばれる。

※「百万人の福音」。「感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ3:15。

※教会が与えられている事の感謝。牧会者（無牧の教会の方から聞かされる切実な言葉）、祈り支えて下さる兄弟姉妹、礼拝できる会堂他、数えきれない主の恵みを感謝したい。何一つ、当然ではない。無牧の教会、ゼロから開拓で集う信徒の方がいない教会、会堂がない教会、色々な所をとおられる教会がある。

2015年の主の恵み: 2月1日: 寺田誠兄の転入式。4月5日: 福永健司兄、百合恵姉の洗礼式。

5月3日: 植田高司兄、陽子姉の転入式。5月に御言葉分かち合い祈り合うグループのスタート。

5月30日: 寺田兄、麻美姉の結婚式。5月31日: 寺田麻美姉の転入式。

7月24日: 15年間、返済し続けて来ました4、200万円の会堂返済が、完済できた恵み。すべての与え主の神に栄光を帰し、神に感謝! 8月29日~10月4日: ゴスペル教室の祝福。

12月5日: ファミリークリスマス。主が送られた64名の出席者。子供達の降誕劇。子供達の成長。

ゴスペルの発表会の方々の賛美。12月23日: 多くの祈りがささげられた山口麓郎君の退院。祈り支える恵み、祈られる恵み。12月27日: 山口ゆから姉の洗礼式。主の導き。主の恵みから出る仕え

合う奉仕、互いに愛し合う暖かさのある教会！御言葉による成長。

- ③満足度のハードルを上げてしまう→対処：御言葉の教えに、自分の満足度を合わせる。欲張らず、基準を下げる。「全能の主との親しい交わり」P39。「満ち足りる心（心から感謝する心）を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また、何一つ持って出ることでもできません。衣食があれば、それで満足すべきです」Iテモテ6：6-8。
- ④人への要求のハードルが、高過ぎる（程良い期待は人を励ます）。そうすると、いつも心に怒り（要求）が起こり、いらいらしてしまう。→対処：人への要求のハードルを下げる。まず、その人の人格を受け入れる。人は受け入れられて初めて、変えられるプロセスが始まる。神は、私達を、そのまま、まず受け入れて下さる。そして、主の姿に一步一步、変え続けて下さる。「さばいてはいけません（まず受け入れる事をせず、自分の高過ぎる要求で人を責めてはならない）。さばかれないためです」マタイ7：1。
- ⑤自分の思い、視点で、感謝とそうでないものを簡単に分けてしまう心→対処：苦しみにも、主において尊い価値がある事を学び、知り続ける。「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし、今は、あなたのことばを守ります」「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました」詩篇119：67、71。苦しみは、自分の弱さを教え、神に心から拠り頼む事を教える。苦しみは、苦しんでいる人を思いやる者、寄り添う者に変える。※すべてが理解できなくても。イザヤ55：6-9。苦しみから学んだ事を記す。

II 感謝から生まれるもの。

1. まず、罪深い私達を愛して下さった神への愛が増し加わる。神に、心が近づく。
2. 自分の心の喜び、平安、健康。
3. 主が導かれた教会への感謝と愛。
4. 家族、知人、友人、隣人への愛が、与えられる。要求のハードルを下げて、本日から、神様に対してと同時に、人にも感謝を示したい。それは、良き証しとなる。ノンクリスチャンのご家族が、礼拝に出席する事を許して下さる事自体、心から感謝すべき事。祈りつつ感謝の言葉を。互いに。時があるうちに感謝を！
5. 神ご自身を喜び、神のあられる恵みを数え感謝する時、試練の中でも、私達の喜びが与えられ、そこから律法主義からではない、心から主を証しする事、伝道、宣教が生まれる！「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は神なる主を避け所とし、あなたのすべてののみわざを語りあげましょう」詩篇73：28。
6. 主を信じ、洗礼を受ける人々が起こされる！主の恵みを数え、心から感謝する所に御聖霊の働きが豊かになる。バプテスマ、洗礼の意味、意義＝①主の喜び、主の御命令。キリストを信じる人は、信仰の告白として洗礼、バプテスマを受ける。

洗礼を受ける意味、意義。

1. 主イエスが命じられたから。マタイ28：19。
2. 「神への誓い」Iペテロ3：21。
3. 御父と御子と御聖霊の交わりの中に迎えられる。マタイ28：19。
4. 聖霊なる神の内住により、主と霊的に一体とされ、主と共に死に、主と共によみがえって、新しい歩みをする事を告白する聖なる儀式。ローマ6：1-14。
5. 主の弟子の集まり、神の家族である教会に加えられる入門の儀式。使徒2：41、47。歓迎！
6. 神の臨在、神の喜びに与かる時。
「ひとりの罪人が悔い改めるなら…喜びが天にある。…喜びがわき起こるのです」ルカ15：7、10。
7. 洗礼は、ゴール、完成、卒業式ではなく、霊的な入学式、主にある成長の始まり。

洗礼後のフォロー。これから試練があっても、主がいつも共におられる。神の家族である教会のお互いが祈り合い支え合う。日々心の糧である聖書を読み、神が喜ばれる礼拝を大切に、最も大切な神にお会いするのに遅れず心を整え、互いに主の恵み、御言葉の恵みを分かち合い、課題も正直に祈り合い、主の教会を建て上げたい。